

行列輪講: 練習問題

杉浦 圭祐

慶應義塾大学理工学部情報工学科 松谷研究室

July 28, 2023

目次

① 練習問題

② 解答

第 1 回: 行列の基本処理, 逆行列

- 1 以下の行列積の (i, j) 成分を, 各行列の成分を用いて書いてください.

$$\mathbf{AB}$$

$$\mathbf{A}^\top \mathbf{B}$$

$$\mathbf{ABC}$$

$$\mathbf{ABCD}$$

$$\mathbf{AB}^\top \mathbf{CD}^\top$$

$$\mathbf{A}^n$$

$$\text{例: } \left(\mathbf{ABA}^\top \right)_{ij} = \sum_k \sum_l a_{ik} b_{kl} a_{jl}$$

- 2 対称行列, エルミート行列, 正定値行列, 直交行列, ユニタリ行列とは何か, 確認しましょう.

第 1 回: 行列の基本処理, 逆行列

- 3 Sherman-Morrison-Woodbury の公式があります. どのようなときに, この公式が役に立つでしょうか.

$$(A^{-1} + BD^{-1}C)^{-1} = A - AB(D + CAB)^{-1}CA$$

- 4 上式から, 以下の式を導出してください.

$$(A + bc^T)^{-1} = A^{-1} - \frac{A^{-1}bc^T A^{-1}}{1 + c^T A^{-1}b}$$

- 5 シューア補行列による以下の式を確認してください.

$$\begin{pmatrix} A & B \\ C & D \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} I & 0 \\ CA^{-1} & I \end{pmatrix} \begin{pmatrix} A & 0 \\ 0 & D - CA^{-1}B \end{pmatrix} \begin{pmatrix} I & A^{-1}B \\ 0 & I \end{pmatrix}$$

第2回: 行列式, トレース

- 1 同じ列ベクトルを2箇所に含んだ行列の, 行列式が0になることを確認してください.

$$\det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) = 0$$

- 2 n 次正方行列 \mathbf{A} を c 倍したとき, 行列式は元の c^n 倍になることを確認してください (置換による行列式の定義を用いる).

$$\det(c\mathbf{A}) = c^n \det(\mathbf{A})$$

- 3 上を用いて, i 列目に j 列目の c 倍を足しても ($i \neq j$), 行列式が変わらないことを確認してください.

$$\begin{aligned} & \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i + c\mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) \\ &= \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) \end{aligned}$$

第2回: 行列式, トレース

- 4 以下を確認してください (1 行目から 2 行目を引き, 2 列目に 1 列目を足す).

$$\det \left(\begin{pmatrix} \mathbf{A} & \mathbf{B} \\ \mathbf{B} & \mathbf{A} \end{pmatrix} \right) = \det(\mathbf{A} + \mathbf{B}) \det(\mathbf{A} - \mathbf{B})$$

- 5 以下を確認してください. \mathbf{A} の余因子行列 $\text{adj } \mathbf{A}$, 行列式 $\det(\mathbf{A})$, 逆行列 \mathbf{A}^{-1} について,

$$(\text{adj } \mathbf{A}) \mathbf{A} = (\det(\mathbf{A})) \mathbf{I}$$

- 6 以下を確認してください.

$$\text{tr}(\mathbf{X}^{-1} \mathbf{A} \mathbf{X}) = \text{tr}(\mathbf{A})$$

第3回: 行列とベクトルの微分

- 1 \mathbf{x}, \mathbf{y} を n, m 次縦ベクトルとします. 以下の微分の形 (サイズ) を確認しましょう. 分子レイアウト, 分母レイアウトの双方で考えてください.

$$\frac{\partial \mathbf{y}}{\partial x}, \frac{\partial y}{\partial \mathbf{x}}, \frac{\partial \mathbf{y}}{\partial \mathbf{x}}$$

目次

① 練習問題

② 解答

第 1 回: 行列の基本処理, 逆行列

1 以下のようになる.

$$(\mathbf{AB})_{ij} = \sum_k a_{ik} b_{kj}$$

$$(\mathbf{A}^\top \mathbf{B})_{ij} = \sum_k a_{ki} b_{kj}$$

$$(\mathbf{ABC})_{ij} = \sum_k \sum_m a_{ik} b_{km} c_{mj}$$

$$(\mathbf{ABCD})_{ij} = \sum_k \sum_m \sum_n a_{ik} b_{km} c_{mn} d_{nj}$$

$$(\mathbf{AB}^\top \mathbf{CD}^\top)_{ij} = \sum_k \sum_m \sum_n a_{ik} b_{mk} c_{mn} d_{jn}$$

$$(\mathbf{A}^n)_{ij} = \sum_{u_1} \sum_{u_2} \cdots \sum_{u_{n-1}} a_{i,u_1} a_{u_1,u_2} \cdots a_{u_{n-2},u_{n-1}} a_{u_{n-1},j}$$

第 1 回: 行列の基本処理, 逆行列

2 省略.

3 A, B, C, D を, $m \times m, m \times n, n \times m, n \times n$ 行列とする. ここで $m \gg n$ とすると, 左辺を計算するためには, 大きな m 次行列の逆行列が必要である. 一方, 左辺の代わりに右辺を計算することにすれば, 小さな n 次行列の逆行列を求めるだけでよい.

$$(A^{-1} + BD^{-1}C)^{-1} = A - AB(D + CAB)^{-1}CA$$

4 省略.

5 省略.

第2回: 行列式, トレース

- 1 $\lambda = \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right)$ とする. 列を交換すると, 行列式の符号は反転する. しかし, 列を交換しても, 元と同じ行列であるから, $\lambda = -\lambda$ である. よって, $\lambda = 0$ である.
- 2 省略.
- 3 以下のように示せる. 最初の式変形では, 列の線形変換と行列式との関係を用いる. 最後の式変形では, 同じ列を含んでいれば行列式が 0 となることを用いる.

$$\begin{aligned} & \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i + c\mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) \\ &= \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) + c \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) \\ &= \det\left(\left(\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n\right)\right) \end{aligned}$$

第2回: 行列式, トレース

- 4 以下のように示せる. 最後の式変形では, ブロック下三角行列の関係を
用いる.

$$\begin{aligned}\det \left(\begin{pmatrix} \mathbf{A} & \mathbf{B} \\ \mathbf{B} & \mathbf{A} \end{pmatrix} \right) &= \det \left(\begin{pmatrix} \mathbf{A} - \mathbf{B} & \mathbf{B} - \mathbf{A} \\ \mathbf{B} & \mathbf{A} \end{pmatrix} \right) \\ &= \det \left(\begin{pmatrix} \mathbf{A} - \mathbf{B} & \mathbf{0} \\ \mathbf{B} & \mathbf{A} + \mathbf{B} \end{pmatrix} \right) \\ &= \det (\mathbf{A} - \mathbf{B}) \det (\mathbf{A} + \mathbf{B})\end{aligned}$$

第2回: 行列式, トレース

- 5 (adj \mathbf{A}) \mathbf{A} の (i, j) 要素は, 次のようになる. δ_{ij} は, クロネッカーのデルタである. 余因子行列 adj \mathbf{A} の (i, k) 要素は, \mathbf{A} の (k, i) 余因子 Δ_{ki} となることに注意する.

$$\begin{aligned} ((\text{adj } \mathbf{A}) \mathbf{A})_{ij} &= \sum_k (\text{adj } \mathbf{A})_{ik} a_{kj} = \sum_k \Delta_{ki} a_{kj} \\ &= \delta_{ij} \det(\mathbf{A}) = (\det(\mathbf{A}) \mathbf{I})_{ij} \end{aligned}$$

- 6 トレースの循環性を用いる.

$$\text{tr}(\mathbf{X}^{-1} \mathbf{A} \mathbf{X}) = \text{tr}(\mathbf{A} \mathbf{X} \mathbf{X}^{-1}) = \text{tr}(\mathbf{A})$$